



むらかみ せいいちろう  
村上 誠一郎さん (60)  
=自民前

# 古参でも 勉強欠かさず

民主党に政権を奪われて3年余り。「現職の衆院議員として2回目の野党生活。前回8カ月だったが、今回は本当に長かった」。12党が争う選挙戦を「次の世代が生き残れるかどうかの正念場の戦い」と位置付け、政権奪回に情熱を燃やす。

声高に訴えるのは「財政・外交・エネルギー政策の立て直し」。地域課題の一つである離島や山間部の過疎化対策には、高齢者に特化したまちづくりを目指す「サンタモニカ構想」を提案する。「瀬戸内海沿岸は第二の人生を送るのに最適な場所。リタイアし

た人たちが全国から集まる地域にしたい」と話す。34歳で衆院選に初当選し、財務副大臣や行政・規制改革担当などを歴任。今回が10回目の選挙となるベテランだが、政策や政治活動に関する勉強は欠かすことがない。昨年11月には在職25年の結集と

して、日本が直面する課題や再興に向けた具体策を示した著書出版。他党議員からも評価が高く、講演依頼に応じて全国各地を巡ったという。多忙を極める中、漢詩や古文を読み返すのが息抜きのひととき。自民一筋で連続8期を務めた自身の政治姿勢を重ね、「信念を貫く上での悲哀や感慨を文章に託して、こういつことかと心が和む」。

(白川亜子)